

成長履歴の解析によるサケの生残傾向の把握

背景

近年秋サケ資源が急激に減少しており、その要因を解明する上でサケ幼魚期の生残傾向を把握することが重要。



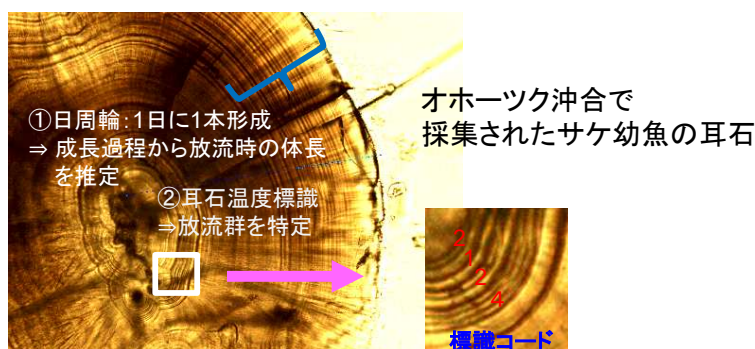
成果

1 サケ親魚の鱗による成長解析



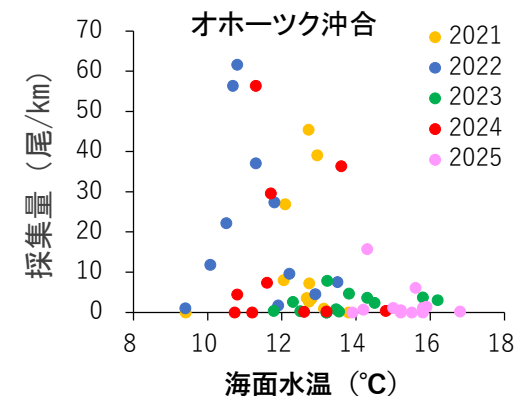
初期成長の高い個体が生残する傾向

2 サケ幼魚の耳石による成長解析



放流時の体長60mm以上で生残率向上の可能性

3 沖合域でのサケ幼魚分布



海水温が高い年にはサケ幼魚の分布密度が低い傾向

期待される効果

初期減耗を軽減できる放流サイズ、放流時期の検討への活用が期待される。